

アトピー性皮膚炎治療研究会 第28回シンポジウムの開催報告

(2023年2月18・19日)

※ロイトン札幌とWeb配信のハイブリッド開催

金子 栄

益田赤十字病院皮膚科部長

はじめに

アトピー性皮膚炎治療研究会はアトピー性皮膚炎に関連する治療についての正しい知識と最新情報を共有し、発展させることを目的とした研究会です。1996年の第1回より年に1度、シンポジウムを開催し、比較的少人数での活発なディスカッションを特徴としています。例年は開催の2年前には開催地や会頭を決定するのですが、第26回シンポジウムはCOVID-19のためハイブリッド開催を余儀なくされ、それに伴う課題も多く、1年半前の2021年8月に会頭が決定しました。裏事情としては、自分(金子)に打診があったのですが、一人ではとてもではないが無理だと考えて、島根大学と一緒に学んだ現すみかわ皮膚科アレルギークリニックの澄川靖之先生に泣きついて、共同会頭になっていたというのが実状でした。

開催場所と時期の決定

開催場所は会頭の所属先に近いところが通例で、自分がある益田市(島根県)はどうかと考えました。近くに萩石見空港があり東京からの便が1日2便あるのですが(COVID-19最盛期のときは週に3便程度に減便されていました)、そのほかの地域からのアクセスは決してよいとはいえず、また会場も適切ないところがないため、札幌での開催といたしました。時期は例年2月に行われており、ほかの月はむずかしいとの判断にて、札幌雪まつりが終わった1週間後となりました。そのような経緯で、COVID-19に対する不安(途中、サル痘もどうなるかと心配しまし

た)、雪に対する不安とダブルの不安要素を抱え、さらには研究会開催においては素人である自分が会頭のため、事務局のすみかわ皮膚科アレルギークリニックの方々、運営事務局のコンベンションリンケージさんには多大な負担をおかけいたしました。感謝しております。

神頼み

2022年の第27回の長崎での開催も、COVID-19の影響でWeb開催となりました。事前に質問者を割り振るなど工夫を凝らし、当会の特徴であるディスカッションも通常のWeb講演と比べて充実させましたが、Webだとどうしても質問のタイムラグが生じることなどの問題もありました。そこで、2023年は現地でも開催できますようにと、島根ならではの神頼みを出雲大社、北海道神宮にしてみました(図1, 図2)。

ハイブリッド開催

ハイブリッド開催にすると、その分経費がかかります。幸いなことに、アトピー性皮膚炎に対する治療薬は近年増加しており、スポンサードセミナーを多く行うことにより、その問題を解決いたしました。

すそ野を広げる

シンポジウムのテーマは「アトピー性皮膚炎診療のすそ野を広げる」といたしました(図3)。羊蹄山



図1 左から北海道神宮、出雲大社と奉納した絵馬



図2 開催前日の北海道神宮

の写真をバックにポスターを作成し、皮膚科だけでなく、小児科や眼科、内科などアレルギーをみる診療科との共通言語をもちたいという意味と、エキスパート頼みの治療だけでなく、皮膚科の初學者にもアトピー性皮膚炎治療の成功体験を得ていただきたいという思いを込めました。



図3 本大会ポスター

講演について

スポンサードセミナーを多くすると会の運営にはプラスですが、どうしてもスポンサーに付度した講演になりがちです。それを避けるため、あらかじめスポンサー企業にお願いして、半分は製品に関連する講演、半分は講演者の自由にしてほしいと要望いたしました。実際どこまで叶えられたかはむずかしいところでしたが、特別講演などをうまく構成すれば、もう少し自由なディスカッションができるのではと考えます。

札幌の夜

すそ野を広げるための工夫として、久しぶりとなる懇親の場も企画しました。前夜祭、懇親会、後夜祭を企画して可能な限り意見交換をいたしました。資料を提示はできませんが、札幌に来られた方にはそれなりに満足していただけたのではと考えております。

市民公開講座

アトピー性皮膚炎治療研究会としては久しぶりの市民公開講座を、会の終了後に開催しました。アナウンスが十分でなく、10名ほどの参加者でしたが、熱い質問を受け、開催してよかったと思いました。とくに学校関係の方がお困りとお聞きしたので、今後はその方面にきちんと告知して、チャンスがあればまた開催したいと思います。



図4 右から第28回会頭・澄川靖之先生、第26回会頭・井川健先生(獨協医科大学皮膚科学講座)、第30回会頭・中原剛士先生(九州大学医学部皮膚科学分野)

おわりに

シンポジウムは現地200名、Web100名の参加をいただき、当日大雪になることもなく(図2)、COVID-19のための蔓延防止措置が発令することなく、無事に終了できました(図4)。参加していただいた方々、澄川先生をはじめとしたクリニックの方々、コンベンションリンクエージの方々のご協力の賜物と思います。改めてお礼を申し上げます。この会を通じてアトピー性皮膚炎診療のすそ野が少しでも広がれば幸いです。